令和元年度 第３回

# 我孫子市総合計画審議会

## 第１分科会

令和元年１０月２６日（土）

我孫子市企画課

（第１分科会）

〇藤井会長　それでは時間になりましたので、分科会を始めさせていただきます。皆様方には、事前に資料を送らせていただいて、更に自己採点ということでマル・バツ・三角を付けていただいてます。

その中で、特にこの１ページ、それからめくっていただいた２ページ、ここまでの基本目標の１から８まで、こちらの文面、中身、こういったところがこういう方向性でいいのか、もしくはどういう改正をしていただくのかといったところのご意見をいただく。その際に、目標ごとに皆様方がマル・バツ・三角をつけたところで、自分はここちょっとまだ足りないと思うよといったところを、逐次ご発言いただきながら進めていきたいというふうに考えております。

今日は、もちろんこちらの部会のところで、中心的に議論すべきというところはもちろんあるんですが、お隣のところにかかわっても構わないということで、基本的に全ての項目を確認しながら進めさせてもらいたいと思います。おおむね50分ぐらいを目安にして進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、基本目標の１というところで、ちょっと読ませていただきます。

「安全で安心できるまちづくり」、これの表記に「だれもが」というキーワードがございました。安全に安心して暮らせるまちづくりという表現の中でということで、「だれもが」も、ここであわせて検討していただく。

「地震や風水害などのさまざまな災害に対応するため、計画的な浸水対策、火災や救急に対応するため消防・救急救助体制の充実、住民、関係機関、地域と連携した防災体制の強化を図るとともに防犯・交通安全対策・消費者への支援など、市民が安全で安心してくらせるまちづくりを進めます。」

これが一つのキーワードになってきているということであります。この中身につきまして、皆様方、マル・バツ等つけられて、特にこの辺のところで、こうちょっと懸念があるねといったところがあれば、具体的にご指摘いただきながら、そういった文言を組み込むかどうか、そういったところを進めていきたいなと思います。

どなたかを指名するとかはいたしませんので、ご自由にご発言いただく形で進めていきたいと思います。

まず、基本目標１、「だれもが」というキーワードも含めて、皆様方のご意見伺いたいと思いますが。いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○宮川委員　私、さっき申し上げたんですが、どういう思いで評価をしたのかということを申し上げますと、やっぱり障害者の方とか立場の弱い人たちに対して、こういう「だれもが」といって、私はそんなにある意味で生活できないよと。何か余りにも過大なイメージを与え過ぎちゃうんじゃないかというのが、「だれも」という強い語調になっているのが、どうかなと思ったんですよね。

そういう意味では、むしろないほうがいいのかなというイメージを持っていたんですけれども。どっちがいいとは私自身も言い切れないんですけれども。「だれもがといっているじゃないの、俺にもやってくれるのか」と言われた場合にどう応えるのか。いや、それは理想ですよと、できない理想を掲げるなというようなことを言われた場合に、ちょっと困るんじゃないかなという感じもするんですけれども。

○藤井会長　さあ、皆さん、いかがでしょう。

どうぞ。

○上村委員　よろしいですか。私、だれもがという表現には賛成なんですけれども。ただ、各論の中に入ったときに、ちょっと表現を変えたほうがいいかなと思ったのが、意見出したんですけれども、⑤の「地域防災力の向上」のところに書いてある中に、そこでまた、「だれもが」になっているんですけれども、そこの「だれもが」のところだけは、私はやっぱりもうちょっと各論に入って、災害弱者とかそういった言葉に変えたほうが、上の目標のためには、ここに関しては強調しているよみたいな感じになっていいのかなと、私は思ったので。

「だれも」という言葉は、確かに私も、おっしゃるとおり、みんな全員で何でもかんでもオーケーかという話になっちゃうので、多少、各論のところでは、もうちょっと言葉を絞り込んでもいいのかなと、私は個人的には見て思いました。

○藤井会長　はい、どうぞ。

○山下委員　ほかの市町村とかのこういった計画でいうと、「だれもが」といっぱい使っています。宮川さんおっしゃったように、こう言ったんじゃないかというふうな部分、その言葉の厳密性が問われるそのいう表現もあるんですけれども、ここはスローガンなんで、そこまで厳密に捉えなくてもいいんじゃないかなと。そういうふうなことを言ってくる人もいるかもしれないんですけれども、議会みたいに、これこれやりますというふうな話でもないので、割とほかの市町村とか、そういう自治体なども使っている言葉でもあるんで、私はあってもおかしくないかなという感じはしているんです。

○藤井会長　この「だれもが」というキーワードは、基本的にはノーマライゼーションという

考え方で、これは我が国だけの問題じゃなくて、世界の中でやはりノーマライゼーションというね、そういった方向性といったものが打ち出されている。ある意味、スローガン、目標、こういったところの中で、その地域の中で暮らす人たち、そのみんながといった思いを具現化する一つの言葉になるということで、それが日本語にすると「だれもが」になると。そういった面では、その捉え方をどうするかと。

実際に、施策メニューの中に、「だれもが何とかかんとかの整備事業」なんていうと、これはなかなか、いや、本当にそうなのということになってくるということでございますね。

今、ご意見があった中で、その「だれもが」といった表記が合うところと合わないところ、こういったところは少しずつ出てくるのかなという気はいたしますから。

ここの安全・安心といったものは、やはり今回の災害があって、福祉施設とかそういったところから避難するとか、そういった時、やはり障害の区別なく、それこそ安全を守るための取り組みは、やっぱり行政は進めていくわけなので、そういった安全・安心に関するところは「だれもが」があっても、それは、私自身も持っていたほうがいいかなと思ってございますが、皆さんはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○山内委員　こちらの資料は漢字になっていて、このＡ３でもらったのは平仮名なんですね。基本的には平仮名ですよね。

○藤井会長　平仮名でよろしいんじゃないですかね。

○山内委員　私の意見は、はっきり「だれもが」と入れたほうが、そういう障害者も意識して、弱者も意識しているんだという市の考え方が出ていいんじゃないかなと。ここをぼんやりさせると、逆にそこは書いていないから違うんだよというふうにとられるのは、逆効果かなと。もうこれからの時代は、はっきりきちんと全部対応していくんだという姿勢でいいと思います。

○白土委員　私も、謳っておいたほうが、逆に市全体の考え方としてはこうなんだけれども、だから全体的にやりたいんだけれども、当然できないこともある。ただ、やっぱり市としては、そういう姿勢を全面に出したいよということと、これを謳っておくことによって、今、委員おっしゃられたように、無意識的な差別が働きづらい、アンコンシャス・バイアスが働きづらいというふうな状況にもなるんじゃないかなというふうには思います。

○藤井会長　ご意見が出てまいりました。「だれもが」というキーワードだけでも結構な時間を要するという形になりますが。今、幾つか何人かの委員の皆様方からお話を伺っていると、総合的に「だれもが」という捉え方、これ基本的には、市の姿勢として打ち出す方向、これよ

さそうだよねといった。ただ、やはりこう懸念するところもあるので、そういったところでは、具体的な施策とくっついたときの対応だけは、事務局としてちゃんと精査してつくっていただくという、そういう方向性でよろしゅうございますかね。

それでは、この基本目標１の中身のところでございますが、てにをはの間違いはございましたが、例えばここの「消費者への支援など」というキーワードがあったりとかしていますが、皆様方で、こちらの項目のところに対して、何か安全・防災のところで、どうでしょうか、中身のほうで。

○山下委員　じゃ、中身のほうで何点か。

今、会長からお話のあった「消費者への支援」という言葉なんですけれども、安全で安心なというふうなカテゴリーの中でしゃべるので、「消費者への支援」というのは消費者保護とよく使うんですね。悪徳な商法に遭わないとか、振り込め詐欺は犯罪ですけれども、どちらかというと守ってあげるというイメージのほうがいいんじゃないか。消費者支援というと、もうちょっと幅広くなるような気がするんで、ここは「消費者保護」なのかな、そのほうが一般的だという気がします。

それから、一番上の浸水対策、大雨が降ったときに水没しないようにということなんですけれども。「計画的な」というのが、よくよく見ると、排水施設の計画的な整備を進めていく計画なんだと思うんですね。なので、計画的な浸水対策という言葉が、端的なんですけれども、少し何というか省き過ぎていて、逆に意味がわかりづらくなっていないかなという気がします。

○藤井会長　極端な話を言うと、なくてもいいという。

○山下委員　いや、ちょっと長くなっちゃうんですけれども、全体的に２つの文に分けたほうがいいかなとちょっと思っていて。「計画的な浸水対策」というのは、「浸水被害軽減のための排水施設の計画的整備」。私、意見にはそんなふうに書いたんですが、計画的な浸水対策という言葉は余り使わない。浸水被害対策ならまだいいんですけれども、ちょっと浸水対策というのは、ちょっと端折り過ぎかなというのがある。

それから、２行目の、住民、関係機関、地域と連携という言葉がありますが、住民と連携と、あと下の一つ上にいって、地域と連携と割と同じような場面で使われる。地域と連携というと、住民との連携というような意味合いで特に使われることが多いのかなと思います。

具体的に見ると、この地域との連携というのが、どうも周辺自治体のことのような近隣自治体のようなことみたいなので、ここは何というんですかね、「住民、関係機関、地域と連携した」というよりは、住民、「関係機関」というのは、ここで言えば「国や県」のことだと思う

ので、国や県、それと、もう一つの地域というのが近隣自治体というふうなことであれば、住民、国や県、近隣自治体と連携したというふうに書いたほうが、住民、関係機関、地域というよりはわかりやすい、イメージしやすいのかなというふうな気がします。

いずれにしろ、ちょっといろんなものをこの中に書き込んでいくようにしているんですけれども、長過ぎるという感じがするので、２つに分けたほうがいいというふうに感じています。

○藤井会長　事務局として、今、お話のあった住民、関係機関、地域というキーワード、これは、今、ご指摘があった内容を想定していたのか、もっと違う意味を持っていたのか、その辺いかがですか。

○事 務 局　今、ご指摘あった内容で考えていたので、よりわかりやすく修正したいと思います。

○藤井会長　そうですね。それであれば、わかりやすくのほうがよろしいですね。

計画的な浸水対策といったところ、これ確かに意味がよくわからないというところがありますので、その辺の表現は検討していただく形がいいのかなと思いますね。

そのほかいかがでしょうか、お気づきのところ。

どうぞ。

○白土委員　最初のところの「災害」というのが、これが前の部分にあるところ考えると「自然災害」に変えたほうがいいんじゃないかなということと。あと、これは対応するというよりも、備える防災の観点がとか強いのかなと。そうすると、防災の事項を並べていくと、途中に「防災体制の強化」というのが後ろに入ってくるんですけれども、その途中に火災や救急に対応するための「消防救助体制の充実」というのは、これ逆に言うと防災ではなくて、減災に関する項目だと思うので、そこの項目の順序の整理と、これは端的にいうと「防災」と「減災」ということに大きく分けられるので、その辺をもう少し整理したほうがいいんじゃないかなというふうには思います。

○藤井会長　やはりこれは一文で書くと無理があるんですね。

○白土委員　ちょっと厳しい感じはしますね。

○藤井会長　いずれにしましてもね。

○白土委員　２つが混在しちゃっているので。

○藤井会長　安全を守るためにということで、今、ご指摘のように、防災なのか減災なのか。そういった中から出てくる安心といったキーワードが、そういったものが表現としてちゃんと二分化された形で出てくるとよろしいかなと、確かに思いますね。

そのほか、いかがでございましょうか。

指摘事項があれば、後で事務局がきっと頑張っていいものを書いてくれますので。

特にこの項は、よろしゅうございますか。

それでは、基本目標２というところですね。

こちらは内容的には、「だれもが健康で自分らしく　ともに暮らせるまちづくり」ということで、「市民同士の支え合いを中心とした地域福祉の基盤が充実するとともに、年齢や性別、障害等の有無に関わらず、あらゆる人たちが地域の中で、生涯を通じて健康でいきいきと幸せに暮らし続けることができるまちづくりを目指します。」

ここで、「あらゆる人」と、先ほど、「だれもが」というキーワードのちょっと表現が変わったといいますか、ちょっとそういう文言があるところです。

この基本目標２に関しまして、皆様方がチェックされたシートの中でも、まだ足りそうもない、このキーワードは追記しておいたほうがいいといったようなことがございましたら、ご紹介いただければと思いますが。

はい、どうぞ。

○山下委員　すみません。言葉というわけではないんですけれども、目標に対する説明なので、１行目のところの市民同士の支え合いを中心とした地域福祉の基盤が「充実するとともに」というと、何か自然にそういうふうになっていく感じがするんですけれど。目標なので、変えていくという意味合いからすると、「充実させるとともに」という表現のほうがいいのではないかな。特定の状態へと主体的に持っていくというのが目標なので、言葉の使い方としての話でしかないんですけれども、「充実させるとともに」のほうがいいような気がしますけれども。

○藤井会長　やっぱり前に動きますね、確かに。

○山下委員　はい。

○白土委員　ちょっとよろしいですか。

○藤井会長　はい、どうぞ。

○白土委員　「年齢、性別、障害等の有無に関わらず」というところが、表記するほうが具体的でいいのか。あるいは、いっそのことその表記すべきことが、今、世の中多くなってきているので、場合によっては削っちゃったほうがいいのか。謳わなきゃいけない概念が、今、かなり多くなってきているので。

○藤井会長　今、ご意見いただいた、ちょっとめくっていただくと、２ページの一番下のところを見ていただくと、ここでＬＧＢＴの説明なんかも入っています。こういった面では、いろ

いろな性的な問題ですね、こういったところの表記も、これは目標８のところで、だれもが活躍というキーワードが出てくるんですが、それと類似した内容がやはりここのところでもかかわってくるということですね。

まず、社会福祉の基盤、「あらゆる人」といったキーワードの中に、「だれもが」というキーワードに、基本的に含まれてくると思うんですね。それを具体的に、より我孫子市は推進するという思いで書き込むか否かといったところですね。

はい、どうぞ。

○上村委員　これは事務局に質問なんですけれども、これ「市民」と「住民」というのは何か分けた言葉になるんですか。

○事 務 局　まだ、統一されていないところです。

○上村委員　何でかというと、これ「市民」になると、我孫子市民になってしまって、我孫子市に住んでいる、多国籍の人たちが非常に増えている中で、その人たちはこの中に入ってこないのかなと、これ見たときに一瞬思ったんですよね。

逆にこの総合計画審議会では、そこまでを意識して考えていくのか。そうではなくて、あくまでも「市民」だけを考えていくのかということによって、結構いろんなところで展開することが変わってくるのかなと思ったので、これはちょっと一つの質問と意見として提示させていただきます。

以上です。

○藤井会長　いかがですか。

○事 務 局　考え方としては、住んでいる人全てという考え方ですので、それを表現するには、「市民」のほうが適切なのか、「住民」のほうが適切なのかという、そこは意見が分かれるかもしれませんけれども。

○藤井会長　この後の多文化共生社会というキーワードが出てきたりしますね。そうすると、我孫子の特徴としてということで、海外の方が定住する数よりも、どちらかというと研修して育っていくというか、そういう方たちのほうが多いというふうにお伺いしていますね。そういったときにこう、定住者ではない、実際にそこの市に、市の中でこう一緒に生活を共有する立場ではあるけれども、そういった人たちをどこまで組み込んだ表現にしていくかと。その辺の難しさも我孫子はちょっとあるのかなと思いますね。

いずれにしても、今の段階で、「市民」それから「住民」といったところの基本的なことですが、余りできていないといったところがあるかと思っておりますので、ここだけの話じゃな

くて、全体を通じて精査が必要になってくると思います。

○宮川委員　いいですか。

○藤井会長　はい。

○宮川委員　市民というのは、いわゆる我孫子市に来て勤めている人、いわゆる昼間市民というような考え方でいくと、住民を含めたもっと広い範囲で捉えられると思うんですよね。都心でいえば、千代田区なんかは人口少ないけれども、昼間区民はものすごい人口になるわけですよね。そういう意味では、住民といったことと、それから区民といったことと意味が違ってくるということですね。

そういう意味でも、「住民」と「市民」も使い分けは、客観視しておかないといけないのかなという感じはします。

○藤井会長　特に災害とかのときには、昼間の問題といったところは何回か起きてきていますので、そ事務局の中でも統一して、「市民」として使うか「住民」として使うか、そこをやはりきちんとしたほうがいいかと思いますね。

これ以降、「だれもが」というキーワードが出てくると、さらにその総称が、理念として価値をする場合と、具体的な対象者を絞って使う場合と、その辺の使い分けが必要になると思いますね。

今ご指摘のあった、年齢や性別、障害等の有無に関わらずというキーワードは、この後も出てまいりますので、目標８のところで、だれもがといったところから、直接的に関係するところなので、そこのところの記載だけでも十分かなという気もいたしますが。その問題意識があったという形で、今、押さえていただいて、ここの表現、「あらゆる」に含まれそうだよというところで、今後の整理は検討していただきたいということかと思います。

そのほかにいかがでございましょうか。

よろしゅうございますか。一応、皆様方のほうでいただいた字句を押さえていますので、メモされたこと等は十分把握されておりますので、それは反映できるような形にしたいと思いますが。

それでは、基本目標３「安心して子どもを産み育てられるまちづくり」ということで、「未来を担う子どもたちが輝き、健やかに成長できるよう――先ほど出てきました、結婚・妊娠・出産・子育てとライフステージに応じた取り組みを充実することで、安心して子どもを産み育てられるまちづくりを進めます。」

こちらは、どちらかというとお隣のところでも議論されますが、皆様方のほうで、特にこの

辺の表現、あるいはこういったところの事業化、事業のところについて、具体的にもう少し突っ込んだほうがいいんじゃないかなといったようなこと、ご意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○山下委員　これも先ほどと同じで、目標の説明なので、特定の方向へと状態へと持ってくるということで、「充実することで」ではなくて、取り組みを「充実させることで」のほうがいいと思います。

○藤井会長　これも先ほど同様になっていますね。

　そのほか、いかがでございましょうか。

　皆様方、「結婚・妊娠」というキーワードがこう続いても、特に違和感はなしということですか。

○白土委員　ここは要するに、結婚イコール妊娠なのかな。不妊治療もやっているということでしたけれども。昨日だったかな、先週だかのドラマでやっていましたけれども、結婚していて当然妊娠を望んでも妊娠できない方とかいらっしゃるわけですし、結婚の目的が当然子どもをつくるということじゃない方もいらっしゃいますし、あるいは単純に結婚という形をとらないで、パートナーという法的な結婚という形をとらないで一緒に住んでいるという方もいらっしゃるでしょうし、ちょっと微妙かなという。

　当然、我々の長い歴史の中で、日本の社会では結婚してというところは常識的なところなんですけれども、それが必要かどうかという概念にまで、この先、これは12年続くということになると、３年後に始まって12年続くようになると、ちょっとここのフレーズはおっしゃるとおり、考え方は。

○藤井会長　私自身も、スウェーデンのネウボラという考え方、やはり子育てをするところを自分ひとりじゃなくて地域の中で、ある特定の支える人たちが、子どもたちが成長する過程を全部サポートしますよという制度、こういったものがある中で、その制度の趣旨が、結婚といったキーワードが本当に含まれているのかというのがちょっと気になるところなんですね。

　やはり妊婦として子育てをするスタートが始まったときから、ある意味その事業は展開されるという確かそういうものだったと思いますので、余りここの結婚にこだわる必要はないかなという気はしています。

　子育てをするのであれば、子どもといったものが生まれてくる環境と、生まれた後の環境をどう育成してあげるかといったところを、かなり中心にすればいいのかなといったちょっと気持ちはあります。隣で、ご意見がまた出るかと思います。

○白土委員　スタートが結婚ありきじゃないということですね。

○藤井会長　ないということです、ええ。

○白土委員　今の話の問題は、まず国としての考え方、国民としての考え方も違いますから。

○藤井会長　違いはやっぱりあるので、その辺のところをどう捉えるかだと思いますので。まず多様化というキーワードがこの後出てくると、余り限定しなくてもいいかなという気はちょっとしております。

そういったところ、事務局が困るような意見のまとめ方という形をこれからとっていきますが、よろしゅうございますかね。中身をこれ踏み込んで、ここを説明するという難しいところかなと思います。

それでは、ちょっとページをめくっていただきまして、目標４、この辺、ここ非常に大事になってくるところでございますが。

「活力あふれ　にぎわいのあるまちづくり」ということで、「関係団体や事業者と連携し、農業・商工業を振興するとともに、新たな企業が進出しやすい環境を整え、地域経済の活性化を図ります。地域の特性を活かした観光資源をはじめ、市の魅力を積極的に活用・アピールすることで、交流・関係人口の拡大、移住・定住の促進に向けた多様な取り組みを展開し、活力あふれ　にぎわいのあるまちづくりを目指します。」

こちらにつきまして、具体的なアプローチといったところも含めて、気になった箇所等ございましたら、いただければと思います。特に企業の誘致なんていったところも、先ほど全体の中でもお話を伺いました。いかがでしょうか。

○白土委員　５行で一文なっているんですけれども、もう少しつ整理したほうがいいような気がするんですけれども。前半が商工業振興ということと、後半が要するに、完全に住民を増やすというか、関係人口を増やして活性化していこうということなので、その２つの項目に分けて、商工業振興をするためにどういうことをやるのか、関係人口を増やして賑わいをつくるためにどうしたらいいのかというふうに整理したほうがいいような気がします。

○藤井会長　もともと活力あふれと、賑わいをこう切った理由というのが、そこの間にあるものが違うといった趣旨があるので、そこをもっと明確にというところですね。

そのほか。はい、どうぞ。

○山下委員　というか、もとを送っていただいたのは、一文だったんですけれども、今、配られたのは２文になっているので。

○藤井会長　修正には、その辺を事務局も意識したのかなという気はしますが、それでもどう

かなといったところですね。地域の活性化を図るというところが、活力あふれることにつながっているかといったところですね。

はい、どうぞ。

○上村委員　私、この目標は３つに分かれるのかなという気がしていて、活力というのが商工業・農業の振興を図るというのがまず一つと、次が、観光資源を活用することによって交流関係人口を増やしますよというのが２つで、３つ目に、定住とか移住の促進に向けたものという３つの柱にもありますよと。逆に一文ずつ書いてもらったほうが、わかりやすいのかなという気がします。そうすると、何かすっきりするのかなという気は。

○藤井会長　そうすると、今のご指摘のように、この文がこう細々入ってきているものをやはり整理して分けましょうと。そういったときに、活力といったものと、賑わい、活力はこう見えてくるんですが、賑わいというのはこれで見えてきますかね。

○上村委員　ちょっとすみません。商工会の立場なので、賑わいというと、どうしても商店街とかそういった形というふうになってくるんですけれども。なかなか、今、商店街とかの振興策が我孫子全体うまくいっていないなかで、そこを書いてほしいなというのもあるけれども、ここに書くのは難しいのかなという現実もある。ここでは、地域の特性を活かした観光資源のところに、今言ったキーワードを当てていくしかないのかなという気はしています。

ただ、各論のところでは、やっぱり商工業というか、商店街の振興はもちろん書いてほしいんですけれども、でっかい目標では、なかなかそこまで書き切れないかなというところは、正直なところ思っています。

○藤井会長　恐らく賑わいのところが、先ほどのチェックのところの方向性で、企業誘致、土地利用の話のところで出てきた新規の土地利用であるとか、そういったところが具体的なところが少し見えていると、もっとここの書き込みが強くできるところなんですが、そうすることで地域の賑わいにつながるような企業誘致であるとか、そういった表現ができてくるのかなという気がしますけれども。ちょっとその辺がここではまだ書き込みにくいというところですかね。

はい、どうぞ。

○熊田委員　賑わいというのは、でも商業だけに限らず、今我孫子では市民活動としてお祭りをたくさんやっているじゃないですか。私どもの社員も二十数名、先週の産業まつりに参加して、市の賑わいを出しているつもりなんですが。なので、商業、お店が少ないから多いからという視点だけではなくて、その賑わいというものを捉えることは多分可能だとは思いますよね。

○藤井会長　そうすると、市民なのか住民なのかは別にして、そういった市民活動みたいなものによる賑わいといったようなキーワード、こういったものも組み込んでいったほうがいいといったようなご意見につながってきますかね。

○熊田委員　そこまで、賑わいイコール商業の活性というふうに結びつけなくてもいいんじゃないかということですかね。

○藤井会長　もっとほかのところで、賑わいといったキーワードが触れられそうだというところですよね。

○白土委員　結局それも住んでいる人が増えるということも一つですけれども、来る人が増えるということも賑わいだと思うんですよ。花火のような大会ですと、わんさか周辺から来るわけじゃないですか。そのことが花火というイベントだけじゃなくて、我孫子へ来れば、こういうことができるよという、こういうものがあるよということがあれば、関係人口というのがあるみたいなものですけれども、集まってくるというそういう意味合いもこれあるんじゃないかなと、私は思ったんですけれども。

○藤井会長　そういうことを考えると、３つの枠組みで区切った上で、それがトータルとして、我孫子市の活力あふれるまちといったところにつながるんだということ、そういった表現で落とし込んでおいてやれば、全部いけそうかなと。

○白土委員　そうですね。商売とか産業の部門と、あとはイベント的な関係人口を集める要素と、あと住んでいる人が来て増やそうという３つの要素ということですかね。

○藤井会長　皆さん、大体、今まとめていただきましたが、よろしゅうございますか。

　では、その次の基本目標５のところに移りたいと思います。

　「快適で住み続けたくなるまちづくり」ということで、「まちの魅力が更に向上する土地の活用を推進します。また、道路・公園など社会インフラの適切な整備や維持管理、市民生活に欠かせない上下水道の整備、歩道や公共交通施設などのバリアフリー化、公共交通の利便性の向上を図るとともに、良好な居住環境を提供し、子どもから高齢者まであらゆる世代が、住み続けたくなるまちづくりを目指します。」ということです。

　こちらは市民アンケートも含めまして、かなりインフラに対する要望は高かったそうでございますし、皆様方のワークシートのところでも、チェック内容が非常に出てきたところかなと思いますので、ここのところ、またご意見賜ればと思います。

　少し、歩道とか、今度、具体的な対象物などの表現がなされていますので、そういったところも含めて、ご指摘等いただければと思いますが、いかがでございましょうか。

はい、どうぞ。

○山下委員　タイトルの「住み続けたくなるまちづくり」というところなんですけれども、もう文面だけ見ると、本当に何か定住促進のような感じの言葉に聞こえるんですけれども。間違っているわけではないんですけれども。ここの部分でハードの整備、いわゆる都市基盤整備とかそういったことをインフラの整備とかいっているんで、その場合はよく使うのは、住みやすいですよと。一般的な言葉を使えばいいという話ではないんですけれども、ハードの話だと、よく快適にとか、あるいは住みやすいというほうが、素直な表現じゃないかなという気はします。

○藤井会長　今の意見に対してでも結構ですし、ほかにご意見、何かございますか。

「住み続けたくなる」ということは、その人の行為が加われているわけですよね。インフラとしての公共性という概念とはちょっと内容的に大分変わってくるかと。今のご指摘のとおりかなという気もしますね。

○熊田委員　これ前回の会議で、これにしましょうという雰囲気でそうなったんですよね。

○藤井会長　潤いがわかりにくいとか、いろいろな表現があったというところですね。

○熊田委員　また、立ち返るのであれば、それはそれなんですけれども。

○藤井会長　別にあってもいいんじゃないでしょうか。具体的な方向性の内容とタイトルが合っているかというその確認を今もしていますので、そういった面では、この住民が「住み続けたいまち」というキーワードと、「住みやすいまち」とは、基本的にそのインフラを整備する考え方はちょっと違いますよね。

そういった面では、趣旨が合わないといったところで、ただ、今度は、その文面が本当に住みやすいといったキーワードになるような文言の展開がなされているかとか。そういったチェックが今後また必要になってくるということだとは思いますけれどもね。

はい、どうぞ。

○上村委員　私、前回参加していなかったので、その辺の議論していなかったんですけれども、この住み続けたくなるというキーワード、すごいいいなと思ったのは、各論に落ちたときに、公園であれば、公園がもっとおもしろくなれば住み続けたくなるよねとか。歩道に関しても、もっと高齢者とか障害者が歩きやすければ、住み続けたくなるよねとか。

逆にそういった「住みやすい」のハードを超えて、ソフト面まで展開できるようなことを考えると、「住み続けたくなる」というのは、すごいいいキーワードだなと思ったので、私、逆にこのキーワード維持に賛成です。

○藤井会長　いろんな意見が出て結構ですので。

○白土委員　何のために住みやすくするかというものも、あるのかもしれませんね。確かに、これは障害があれば、おっしゃるとおり、インフラ整備やって住みやすくするということが目標なんですけれども、じゃその先にあるものは何なのということになると、住み続けたくなるということなのかなと、ちょっと思ったんですけれども。

○熊田委員　以前も確か、「魅力的な公園整備」というのがありました。その魅力的なというものに対するアプローチが、委員が言われたような認識だったかと。そのとおりの住み続けたくなるという方向は、そこがなくなると、さっき言われたようなインフラのほうに今度はクローズアップされがちになると思うので、そこの整合がとれていないので、それは、どうかと。

○藤井会長　今回この下のほうである、「魅力的な公園」から、今度は「利用したくなる公園」という形で、その利用者側という視点からも、どちらも魅力も確かにそうかもしれないんですけれども。ここは非常に難しいところでありますよね。

歩道とか出てくると、歩きやすさというそういったものを整えてあげることによって、暮らしやすくなる。暮らしやすくなることによって、人が住み続けやすくなるとかという希望みたいな話がどんどんどんどん堂々巡りをするような、そういった形になると。端的にストレートにそのものを言うんだとしたら、インフラだから、住みやすいというキーワードを立てましょうと。

でも、やはり将来的にそういった整備をすることによって、市民の暮らし方がそこに定着するとかそういったことで、人を呼んでくるまちにするんだということであれば、そういう思いを起因させるような表現をやっぱりここに組み込んだほうがいいかなという、両方ありだと思いますよね、やり方としてはね。

○熊田委員　７ページには括弧つきになっているんですけれども、これは、実際は括弧つきなんですか。

○藤井会長（都市基盤・公共交通）これは、視点を書いただけですよね。

テーマの枠組みだけ書いたところですので、これは余り気にされなくていいと思います。だから、都市基盤と公共交通の枠組みで書いているので、その表現がここに強くあらわれてきたということは間違いないと思いますが。

市民のライフラインとして必要な上下水道の整備と、バリアフリー化がこう並列しているところですね。あるいは歩道に限定しているところとか、あるいは今度は公共交通の利便性とか、並んでいるものの、このバランスがそれぞれに違うかなという気はしますよね。そもそも本来

具備しておかなきゃいけないインフラのものと、それを活用するものと、そういったものが混ざっているので、それは交通整理していただいたほうがいいかなと思いますけれども。

○白土委員　いっそのこと、変な話なんですけれども、都市基盤を整備する中で、住み続けたいというまちをつくるというのを言っちゃったらどうですかね。前半のことはすごく具体的には言っていないんですけれども。ざっくり言うと、都市基盤とかいろいろなものを整備することなので、快適にして住み続けたくしようというようなことだと思うので、各論の中で言うとか。

○山内委員　この住みやすいというのは、今現在のウエートが大きいかなと。でも、住み続けたいまちづくりというスローガンを出せば、こういう不満とか不備を直していきたいよねというのが、ちょっと市民には伝わるかなという気がするんですよね。

○白土委員　そうですね、感じはしますよね。これからどうすべきかというのはね。目的のためにどうしなきゃいけないんだよというのは、わかりやすいかもしれないですね。

○藤井会長　住み続けたくなるですからね。どこにこうウエートを置いてですね、市民の愛着といったものと考えていくかということですね。

私、交通のほうをやっているので、交通と絡めると、首都圏のところで、市民愛着度と公共交通の満足度、これすごく相関高いんですよ。ということで、基本的にはやっぱりそういうインフラが提供されているところのほうが、市民の満足度、市民愛着度は高いと。

でも、市民愛着度というのを、市の市民アンケート調査ですかね、そこで問うと、我孫子市はめちゃくちゃ高いんですよ。それはやはり文化とかそういったようなものに、我孫子といったところに対する思いが、ある意味単独でもって、この公共交通のほうの整備がどうしても抑えられちゃうんですね、不思議なまちなんですよね。

そういった面では、我孫子市を将来どういう方向に向かっていこうかといったときに、インフラといったものも、ちゃんと住み続けたくなるように、もっと愛着度を上げられるように、もっと頑張れよといったメッセージを伝えるのであれば、今こういう住み続けたくなるためのまちづくりのために、こういった要件を整理しようという、そういう方向性の部分で書くということは、あってもいいかなという気がいたしますね。

どうぞ。

○山下委員　頭に快適でとあるので、快適というのは住みやすいという意味合いが含まれていますので、いいかもしれないですね、このままでも。今言ったような、皆様からそういうふうに言われている。

○藤井会長　現状認知型であるというところを、更に良くしようよという思いを出していくというね。そうすると、訂正部分というのはないんですけれども、ちょっと交通整理が必要ですね、中身のレベル的なところを。

そのほかお気づきの点があれば、ここの項目で。

よろしいですか。

では次、基本目標６に移らせていただきます。

「人と自然が共生する環境にやさしいまちづくり。手賀沼と利根川に囲まれた豊かな自然環境を守り育てるとともに、ごみを減らし、資源を循環・利用していくほか、地球温暖化対策やさまざまなエネルギーの活用に取り組み、人と自然が共生するまちづくりを進めます。」

こちらにつきまして、皆様の点検シートと一緒にあわせながら、少しご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○上村委員　利根川のほうは、総合的な本文に出てこなくて、我孫子市の中、全ての中で、利根川というのが余りキーワードになってこないのかなと、逆に気になっていて、ここでしか触れないのなら、逆に言ったら手賀沼だけにしたほうがいいんじゃないかと。何か利根川という言葉が入ってくると、利根川も何か活用するのかなとかいうのが、ものすごく毎回気がかりに感じていたので、そこは逆に事務局の中で、考え方を教えてもらえればなと思っています。

○藤井会長　でも、どうなんですか、私もよくわからないところです。

○事 務 局　小中学生のアンケート結果をみると、やっぱり東西に特徴が出ていまして、西側の地区は手賀沼が出てくるんですけれども、東側地区のイメージとしては、手賀沼ではなく利根川というところが出てくるんです。やはり、手賀沼というイメージは、もちろん誰もが持っているところなんですけれども、そういった市民感情を踏まえると、全部から利根川を外せるかというところになると、更なる検討が必要になるのかなと考えます。

○藤井会長　この囲まれた豊かな自然環境という言葉になると、囲まれているんですか。

○事 務 局　水に囲まれてという。

○藤井会長　そういうイメージとして。

○事 務 局　正確に囲まれているということではないですが、大きく捉えると下には手賀沼、上には利根川があり、市の地勢としては、手賀沼と利根川に囲まれたという表現を使っています。

○藤井会長　表現として使うわけですね。

○事 務 局　そのとおりです。利根川に関しては、布佐が昔、網代場であったという歴史的なものがあるということで、東側の子どもたちにも思いがあるのではないか、というところですね。

○藤井会長　はい、どうぞ。

○上村委員　そう言われると逆に、活力あふれるほうの４番のほうとかでも、もうちょっと利根川のほうも触れてもよいのでは。どうしても東西問題の中で、東側は治水ばかりという話が多い中で、東は無視されていると非常に強い市民感情があるはずなので。

私、もうちょっと東の利根川とかも、触れてほしいなと個人的には思っているんだけれども。

今のところ我孫子市は、施策的に西を中心にしているという考えだからということもあるので、あえて触れていなかったんですけれども。

そこはもうちょっと何か考えていただけると、ありがたいと思います。せっかく総合計画なので。

以上です。

○白土委員　体育館とか利根川河川敷のグラウンドとか、東側にも施設はいろいろあるんですけれども、余りクローズアップされないですよね。

○上村委員　あそこを使ったスポーツイベントとか、あるにはあるんですけれども。

○白土委員　確かにいろいろな整備はしているんですけれども、余り本当にクローズアップされないので、どうせ長くてちょっと戻っちゃいますけれども。

○上村委員　いえ、そのほかのものとかが、なかなか言えなかったので、ひとまず以上です。

○藤井会長　活力と賑わいといったキーワードが、利根川の空間の活用といったところにどう直結していくかといったところですね。事務局として、例えばそういった企業立地だとか、そういったところが想定できるものがあれば、あるいは思いを持って書き込みしやすいんでしょうけれども、自然というキーワードだと、なかなか活力といった部分に持っていきにくいということがあるのかなと。ちょっと検討してみてください、こういった意見。

○事 務 局　はい。

○藤井会長　そのほか、いかがでございましょうか。

特によろしゅうございますか。

それでは、次の基本目標の７「人と文化を育むまちづくり」

「だれもが生涯にわたって学び続けられる環境づくりを進めるとともに、文化芸術やスポーツに親しめる機会や場を提供することで、人と人、人と文化を育むまちづくりを目指しま

す。」　こちらにつきましても、皆様のチェックシート等含めて、お気づきの点があればご指摘いただければと思いますが。

○山下委員　一つ質問がありますけれども。

○藤井会長　はい、どうぞ。

○山下委員　人と人、人と文化を育むとある、この人と人というのは、これは何をイメージしているのかなと思ったのが、まず。

○藤井会長　いかがですか。事務局。

○事 務 局　こちらとしては、スポーツも入っていますので、そういったところで人とのつながりだとか、そういったこともイメージしていますが。

○白土委員　人材交流というところ。

○事 務 局　そんなイメージで。

○白土委員　人材交流で要するにレベルアップを図るということかなと、私は解釈しちゃったんですけれども。

○藤井会長　確かにでも、なかなかわかりにくい表現ですね、確かにね。

地域のコミュニティみたいな話と文化とつながっているところが、コミュニティという言葉を使っちゃうと、もうコミュニティお化けで、何かさっぱりわからなくなってきてね。シンプルにして、人と人、その人と人が何を意味するかということを書いてもらったほうが、確かにわかりやすくなると。ちょっとその辺、事務局のほうで検討してください。

そのほか、いかがですか。

では、よろしゅうございますか。

それでは、基本目標８ですね。

これは、先ほど出てきたところの、だれもが活躍できる共生社会を目指したまちづくりということで、「地域に暮らすすべての人が、（これはだれもがではなく、すべてのひとがですね）それぞれの得意とする分野、特性を生かしながら連携・協力し合って地域課題の解決を図るほか、年齢、性別、国籍やパーソナリティ（または個性またはＬＧＢＴ）に関わらず、だれもが活躍できる共生社会を目指します。」

事務局も迷っているということですね。あらゆる、すべて、だれもが、そして性的なところ、パーソナリティといっても、具体的には個性なのか、いやＬＧＢＴと表現したほうがいいんだろうか。そういった面では、事務局が悩んでいる姿が、ここにあらわれているんだと思います。

こういったところも含めて、先ほどご指摘があった性別、障害などといったところですね。

その辺との関係性をどう見ていくかということになろうと思います。

ここは、結論的なところはなかなか言いにくいところですから、それぞれ委員の皆様の表現の仕方の思いといったようなところをご意見いただけると、事務局も次に当たりやすいかと思いますので、いかがでございましょうか。

○熊田委員　ちょっと聞いてもいいですか。

○藤井会長　はい、どうぞ。

○熊田委員　私の疑問は、他の市町村は、こういう表現はどういうふうな感じかと。

○山下委員　どこの市町村の計画でも、割と市民が主役になってとか、そういう表現をいっぱい使うようになっていますので、ここも多分、そういった大きな市民が主役という中での一つのあり方なのかなというふうには思いますけれども。全国的に統一はされていません。

○熊田委員　具体的にＬＧＢＴとかというキーワードは出ているのか。

○山下委員　そうですね、私のよりも、本当は事務局のほうでよく調べられているんじゃないかなと思うのですが。

○藤井会長　私自体がかかわっている自治体の中で、今、総合計画は品川区があるんですが、品川区は、人権尊重というキーワードの中にＬＧＢＴという形を含めというような表現を使っています。

あと、今、動いているのは、市原市の総合計画、ここの中でもどうしようか迷っています。バリアフリー基本構想という仕組みの中に、そもそもバリアフリーといういろんな多様な方たちがいらっしゃる、そこの中で、ある意味このＬＧＢＴに相当するような性的な対応、こういったところのトイレだとかそういった部分の限定型で、男子トイレだけつくっておけばいいものなんていうところの中で、表記するにとどめるようなところもあったりします。自治体によってばらばらですね。

○白土委員　まだ、思想とか宗教というところまでは、まだですか。

○藤井会長　まだいっていないですね。ただ、思想的なところでということで、どこの自治体だったか忘れちゃいましたけれども、住居区内の中にモスクをつくるという、そういったことを計画の中に盛り込んでいる自治体もあります。

外国の方が定住するとそういったある方向を向いて礼拝をされるといった方のためにというような仕組みを、地域の中でつくらなければいけないということに、一歩踏み出した自治体さんもありますけれども。我孫子は、海外から来られた方が短期的な形で帰られてしまう方が多いようなので、この宗教的なところはまだまだ薄いと思います。やおよろずの神の世界ですか

ら、どこにでも神様がいる日本ですから、余り気にしていないのかもしれませんね。

事務局、どうかなと。その表記の仕方として、何か例はありますか。

例というか、事務局が迷っている表現がたくさん出てきているので、事務局もどうしていいか、本当に苦慮しているところだと思うんですね。

○事 務 局　例ですか。今、すぐには浮かんで来ないのですが。

○熊田委員　国籍が入っていたのでね。

○白土委員　そうですね。それは、宗教は国籍で大きく変わるので、かかわるんじゃないかなと思うんですよね。

○山内委員　だれもがという言葉と、活躍というのが何かイコールじゃないような気がするんですけれども。だれもがといったら、もう全員が、じゃ主役になって何かをこうしたときに、全員が結果出せるのかなというと、そんなことはないのかなと。活躍というすごく言葉は元気があるような、やる気があるような言葉なんですけれども、そのだれもがといったときに、本当に活躍できる人はいないんじゃないかなとは思うんですけれども。

○藤井会長　当然、例えば、だれもが共生できる社会を目指したまちづくりとかは、そういう感じ。活躍を抜くと少し前向きますか。なかなか難しいですね、これは。

○山内委員　難しいです、これね。

○白土委員　何となくこれイメージとしては、要するに活躍ということが、それぞれの人に、基本的人権じゃないですけれども、価値があって、その人たちがいることに意義があるというようなことなのかなとも思ったりしたんですけれども。

○藤井会長　お互いのことを理解し合いながら、それぞれの課題、問題に向き合いながら、地域で生きていく解決策を探るよといった趣旨がきっとあるんだろうなとは思うんですが。活躍という、確かにキーワードになってくると、ちょっと震えを起こしちゃいますね。

○山内委員　すごくハードル高いと思いますね。活躍する人は確かにいらっしゃるんですけれども、じゃ、だれもがなのかといったら、いや、ちょっと。

○藤井会長　市原市さんは臨海工業地帯を抱えていて、その就業者の方がやはり海外の方が多くて、その人たちが住む地域がかなり限定されてきているということで、そういったところでは、その国籍対応型の教育支援、あるいは子育て支援、これに特化したものをやらなくちゃいけないと。そういうことを総合計画の中に組み込もうというところが、今、検討しているところなんですね。そういったところが地域で理解し合えるまちみたいな形の方向性を打ち出しているんだとは思うんですけれども。

ここに、我孫子が国籍を含めたり、本当に国籍を入れる必要があるのかどうかというところもありますけれども。個性そのものも個人的なパーソナリティで全部代表されてしまうのかもしれないということですね。

○白土委員　活躍じゃなくて、輝けるとかは便利な言葉ですけれども。

○藤井会長　それぞれに輝き方があるということですね。

○白土委員　そうですね。

○藤井会長　なかなかここは答えを導き出すのは難しいところなんですけれども。

そのほか、ご意見いかがですか。

○熊田委員　個人的には、年齢から関わらずまでは、省いちゃったほうがいいような気がするんですけれどもね。

先ほど言われていた例えばモスクの話だとかそういったことというのは、今、企業が取り組んでいる中には、ママ向けの社内保育所をつくるとか、社食をつくって、ホワイト企業的なところをやるとか、そういった動きの一つだと捉えてもらえれば、ここであえてその性的な表現につながり、まだ、やすいようなＬＧＢＴとかそういった表現というのがあったりしますよね。

○藤井会長　だれもがというところにこう包括されてくるんだという、そういう考え方でいけるかなというところですかね。

○熊田委員　ほかのほうを見ると、やっぱり男女共同参画の推進ですとか人権尊重等、やっぱり何か裏で、働き方改革とか来年度の同一賃金同一労働とか、そういうものを含んでくるのかなとちょっと見えますけれども。

○藤井会長　今、ちょっとキーワード出ましたけれども、昨日、他市の総合計画審議会があったんですけれども、男女共同参画という言葉はやめたほうがいいという意見もございました。もう今は、あえてその男女の差という問題ではなくて、働き方そのものをどういう形で一回変えていくかといったところに向き合うべきだという、そんなご意見がありました。

○事 務 局　同じようなご意見は、事前にいただいています。

○藤井会長　なかなか難しいですね、ここの書き込みをするところは。確かになくてもよさそうな気が、私もだんだんしてくるんですけれどもね。

○白土委員　いっそ、ないほうがいいかもしれませんね。

○藤井会長　ないほうがいいかもしれない。

○白土委員　実際、３年後ですよね、これが出てくるのは。そうなったときに、じゃどうなるのがいいのかと。非常に流動的になっている概念を含むとは思いますよね。おっしゃるように、

だれもがというところで。

○藤井会長　こちらもおっしゃるとおり、これ相当議論させているんだと思うんですけれども。

　こちらとしては、だれもというキーワードが、やはり我孫子市の中で、スローガンとして掲げていく中で、市民なのかあるいは住民なのか、それから全体像を指しているのか、そういったところちょっと位置づけを明確にして、共通で使えれば、ある意味それぞれの障害とかそういったものに関しては、内包できるだろうという考え方で表記していく、そういった方向性がいいんじゃないかというご意見のほうがちょっと多いかなと思いますので、その辺を含めて、ご検討いただければと思います。

　それでは、ここ最後のところですね。

　「計画推進のための横断的な取り組み」というキーワードで、「まちづくりの基盤を支えるため、市民・団体・事業者・行政による協働を推進するとともに、より質の高いサービスをより低いコストで提供し、持続可能なまちづくりを進めていきます。」

　どうも経営的なところが見えてきちゃうところもありますが。こういった表現が出てきていますが、こちらに関しましては、率直なイメージという形で、ご意見いただけるといいかなと思うんですが。

　低コストというのは、あえてこれ言いたいんですか、事務局としては。

○事 務 局　しっかり浸透させていかなければいけないというところで入れています。

○熊田委員　そう思いますね。高いサービスには、やっぱりそれなりにコストがかかるのでやっぱり、と思います。

○白土委員　計画全体的なところを見ていて、やっぱり市の財政面というのが余りクローズアップされていないじゃないですか。経常収支比率なんかを見ると、かなり我孫子市は芳しくない状態なので、その辺は住民とか市民も理解しながら、その中でどうやっていくかという前提条件ですよね。

○熊田委員　使う話は結構みんな、するんですけれども、稼ぐ話はあんまり出てこないですね。

○白土委員　出てこないですからね。何をやるにも当然ある程度の費用はかかるわけですけれども。逆に言うと、サービスはしてもらいたいけれども、税金は納めたくないという人も結構いるわけですから、その辺はやっぱり考えるようなものも、ちょっとくらいは必要かなと。

○藤井会長　なるほど、そうですね。その辺は書き込みをね、市の思いとして書き込んだのですけれども。

　持続可能なまちといったところは、歳入歳出のバランスを含めた持続できるといったところ

に関しては、コストのイメージがあるかなと思って、そういった持続可能性を高めるため、その範囲の中でやはり質の高いものをという、そういう考え方でもいいのかなという気がしたものですから、ちょっとコメントしたんですけれども。やはり低コストで質の高いものをこう目指すという、それは一つの考え方ですから。

はい、どうぞ。

○上村委員　率直な意見でいいということでいいですか。

○藤井会長　いいですよ。

○上村委員　これ、まちづくりの基盤を支えるためと、持続可能なまちづくりというのは逆のほうが、何か持続可能なまちづくりを進めるために、まちづくりの基盤をつくるということが今回の目的じゃないかなと思うんで。目的と手段はこれはひっくり返っているんじゃないかなと、率直なイメージでは、これを見て。だから、何か質の高いサービスを低いコストとかというのが、何かごっちゃになるのかなというイメージは、持っています。すみません、雑駁な意見で。

○藤井会長　どうぞ。

○山下委員　私も、まちづくりの基盤を支えるためというのが、なぜここに、まちづくりの基盤を支えるためなのかなというふうにちょっと思って。これはタイトルにあるように、目標に掲げたまちづくりを進めるためなんじゃないんですかねという。要するに、全体の目標の１から８までのこれを進めるために、どういうふうなやり方をするのか、というふうなことなのかなと。まちづくりの基盤という言葉で、１から８のことを言っているとすると、ちょっとわかりにくいんじゃないかなと、この基盤という言葉が。まちづくりの基盤というと、何かハードのイメージを持っちゃうんですよね。

○藤井会長　しますよね。

○山下委員　だから、目標に掲げたまちづくりを進めるためとかいうふうに、まちづくりを進めるためとか、何かそういう言葉のほうが、基本目標を進めるための横断的な取り組みとしてはいいんじゃないかな。頭の言葉のところがちょっとどうなのかと。

○藤井会長　今、お二方が言われたところ、まさしくという感じがいたしますね。文言に関しては、事務局に考えていただきましょう。今、私のほうで適切なものはなかなかちょっと出てきませんので、申しわけないですが。

その他、いかがでしょうか。

○山下委員　すみません。さっきの目標８のところ、活躍できるという言葉が、かなりハード

ルが高いんじゃないかという話があって、一つの参考として案ですけれども、例えば、お互いを尊重し協力し合えるというような言い方もちょっと長くなっちゃうんですけれども、だれもがお互いを尊重し協力し合える共生社会を、というのはどうでしょうか。

○藤井会長　それが共生だと、私は、共生の概念の中に含まれるかなという気もするんですけれどもね。

○山下委員　それが共生、なるほど。

○藤井会長　その辺が難しいところですよね。

○山下委員　そうすると、難しいですね。

○藤井会長　「共生」というのを「ともに生きる」という表現で使う場合には、ともにというキーワードの中に、お互いを尊重してという考え方が入ってくると。ただ、海外で言われている共生というキーワードは、これまたちょっと違うんですよね。日本流にこの共生という言葉を例えば使っているということですから。ある意味、日本語はとてもこう、その後ろにある背景を全部盛り込み、盛り込みで出てきている言葉があるので、そういった面では、ここをどう解釈するか。

ただ、やはり共生社会という、その共生社会そのものがわかるためには、今、ご説明があったように、お互いに尊重し合えるという一つのキーワードを入れることで、だれもがといったところをさらに補完し合えるというふうになるので、それがこの具体的な内容の中のある意味、共生社会を目指す方向性にぴたっとくるかというところですね。確かにいい視点の指摘だと思いますので、これで隣のところとあわせた形の中で、事務局で、これ調整していただけるとありがたいなと思います。

それでは、一応全体通してということで、お話は伺いました。あと、皆様のところで、今回ワークシートを宿題として提出いただいた中で、ここだけはちょっと今の議論と関係ないところではあるんだけれども、でも結構ですし、ちょっと言い残したところの中で、この辺のところの視点、考え方はどうだろうということがあれば。特に事務局として、この辺の全体像を見直してもう一度考えてねといった視点があれば、ご紹介いただければと思いますが、いかがでございましょうか。

どうぞ。

○宮川委員　できるだけ文章は３行までにとどめていただきたいと思います。羅列することが多ければ、そういう文章が多ければ別なんですけれども、長くなっちゃうとイメージが、読むほうのイメージが詰まっちゃうんですよね。それから、一つのセンテンスの中で、同じ用語、

まちづくり、さっきもありましたよね。そういう重複した熟語は避けたほうがよろしいんじゃないかなと、その辺をちょっと確認したい。

○藤井会長　全般的なこととして、事務局、ご検討いただければと思います。

○事 務 局　３行というのは一つの項目で３行以内、それとも一文の３行以内ということですか。

○宮川委員　そうですね、一文が３行以内。

○事 務 局　３行以内のものがこう幾つか。

○宮川委員　あとは切っちゃって、次に続けるみたいな形でもいいんじゃないかと。

○事 務 局　一文が余り長くなり過ぎないように。

○宮川委員　そうですね。

○藤井会長　どうしても主語と述語の関係が、最後は読みにくくなったりしますからね。私も、学生なんかに箇条書きにしろと、極端な話、言うんですね。学生はまだ文章がへたくそなものですから、長く書くと何を言っているかわからなくなるので。こういった行政用語として組み込んだときに、やっぱりつながってくる文章というのはたくさんあるので、そうして長くなるときもあるんですけれども、できるだけ簡潔に書いていただくと、ありがたいかなと思います。

○宮川委員　あと、対応できるとか、対応という言葉もね、行政用語のような感じがするんですよ。これはつい使っちゃうと思うんですけれども、何か言いかえができないかなという感じはするんですよ。

○藤井会長　できれば、そういったところは、冒頭でご説明がございましたね。こんな言葉がちょっとわかりにくいよとかいったところを、メモして残してくれといったのですが、もう12時回っているのですみません。解説用語メモ、こちらにつきましては、このあと作業してくれというのも、なかなかこの時間を見ると難しいので、今日、気がついたことで、こんな表現やっぱりわかりにくいよとか、今の行政用語で、市民には言葉として通じないんだよとか、そういったようなことがあれば、これファックスでも大丈夫ですよね。

○事 務 局　はい、結構です。

○藤井会長　では、そちらのほうに寄せていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。特に、今日、気がついて、今、火急に残しておこうというところがあれば、後ほど事務局のほうに、また言っていただければと思います。

○事 務 局　この用紙でなくても、メールでいただければと思います。

○藤井会長　メールでも、そうですか。ということで、皆様方お願いします。特にまた言い残

したこととか、言い忘れたことがあれば伺いますが。

○熊田委員　すみません。資料５の将来都市像候補なんてご紹介いただいたんですけれども、これというのは、どんな場面でどう使われるようなものですか。

○藤井会長　では、事務局、お願いいたします。どこで使うものということですね。

○熊田委員　そうです。基本目標１から８に多分連動するイメージ、キャッチフレーズみたいな感じなんですけれども。

○事 務 局　将来都市像というのは、第３次の総合計画書でも表紙に書いてあるんですけれども、まちづくりで目指すべき理念として掲げているものでして、将来都市像を目指すために、基本目標１から８までの取り組みを進めていくということです。

○藤井会長　全体のスローガンというイメージですね。

○事 務 局　そうですね。

○熊田委員　はい。ありがとうございました。

○藤井会長　もしも、これでまたお気づきの点があれば、事務局に投げていただければと思います。

　では、こちらで終了という形でよろしゅうございますか。